

令和6年10月28日

吉川福祉専門学校
校長 久田 晴實 様

吉川福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 小湊 竜一

令和6年度 第1回学校関係者評価委員会報告

令和6年度第1回学校関係者評価委員会において実施した「令和5年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員名簿

委員長：小湊竜一委員 副委員長：與儀忍委員

阿部 慎也	グループホーム サンパティオ 施設長
上田 誠治	埼玉県立三郷高等学校長
小湊 竜一	特別養護老人ホーム吉川平成園 事務課長
山岡 千賀子	介護保険複合施設憩いの里 介護職員 卒業生
與儀 忍	高齢者福祉施設やしお苑 副施設長

(五十音順)

2 学校教職員（陪席）

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
鯉沼 聡美	同 教務主任
山本 晃市	同 事務長
田村 貴章	同 事務長代理

3 学校関係者評価委員会の開催状況

日 時：令和6年7月24日（水）9時00分～10時00分

会 場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：学校関係者評価委員4名、学校教職員4名（陪席）

欠席委員：山岡千賀子

4 委員会次第

開会

- (1) 委嘱状交付
- (2) 委員の紹介
- (3) 校長挨拶（学校概要の説明）
- (4) 議長選出
- (5) 協議
 - ①教育活動の重点目標（令和6年度）
 - ②令和5年度「自己評価報告書」について
 - ③学校に対する意見・要望など
- (6) その他
 - ①今後の予定
 - ②事務連絡等

閉会

閉会后、授業参観及び学校施設見学

5 学校関係者評価結果

別紙のとおり

以上

令和6年度吉川福祉専門学校 第1回学校関係者評価報告書

令和6年10月28日

- 1 学校関係者評価の進め方の説明
- 2 「令和5年度自己評価報告書」に対する評価の実施

1 学校の理念、教育目標

・特になし

2 本年度の重点目標と達成計画

(学校) 重要視しているのは、昨年度と同様に国家試験の全員合格である。

(学校) 近隣の高校に認知度が少しずつではあるが上がってきていると感じている。

基準1 教育理念・目的・育成人材

1-1 【理念・目的・育成人材像】

(学校) 介護の明るい未来ということで、令和5年3月末までの5年間、介護ロボット「HAL®」を活用してきた。また令和5年4月より、フランスベッド(株)からマルチポジションベッドをレンタルしている。

(学校) 国家試験対策授業を数年前から時間割の中に組み込み、1年生は後期に1コマ、2年生は2コマずつ実施している。また、外部講師にも依頼をし、合格が危ぶまれた学生も含め全員が合格した。

(委員) 今年度の国家試験合格率100%は素晴らしい成果であったと思う。今後も全員合格を目指してもらいたい。なお、合格の要因の一つとして、国家試験対策授業の実施が上げられているが、これは先生方の危機感からスタートしたものなのか、それとも学生からの要望なのか。またその背景についても伺いたい。

(学校) 数年前までは、卒業と同時に介護福祉士国家資格が付与されていたが、現在は国家試験の受験が必須となった。国家試験対策授業については、学生からの要望というよりも、教員発信でスタートし、カリキュラムの中に落とし込むのが一番だろうということで実施した。

(委員) キャリア教育について、高校でも将来を見据えてというところを常に意識して教育を行っているが、自分自身の良さをあまり分かっていない生徒が多い気がしている。将来どういう仕事につきたいかなどの将来展望が薄い生徒も少なくないため、

いろいろな形で生徒たちの実になるような講演や講習会、体験学習などを取り入れている。吉川福祉でも学生の5年後10年後を見越し、在校中にどのようなものを身につけていくかを、様々な形での研修や外部講師を招いての講義、体験学習など、キャリアにつながる動機付けのようなものをさらに取り入れていただければいいのではないかと感じた。

基準2 学校運営

2-3 【事業計画】

(学校) 6月に実施した文化祭(吉福祭)は、数年ぶりに入場者を限定せず開催した。

(学校) 実務者研修の受講生は7名(令和6年度は11名)であった。また初任者研修の受講生は2名(令和6年度は募集中)であった。

基準3 教育活動

3-8 【目標の設定】

(学校) 今回卒業した留学生は1名のみだったが、国家試験には無事合格した。

3-10 【成績評価・単位認定等】

(学校) 卒業研究発表会は、前年度に引き続き学生と教職員のみで実施した。

3-11 【資格・免許の取得の指導体制】

(学校) 国家試験対策として、毎日1日1問、学生同士でホワイトボードに問題を出し合っている。

(委員) 例えば、学生の家族が新型コロナウイルスに罹患した場合、学校としての休みの規定などはあるのか。

(学校) 学内の授業では、学生本人が新型コロナウイルスに罹患した場合には公欠の取り扱いとなるが、同居の家族が罹患し学生本人が休んだ場合には基本的に欠席扱いとしている。ただし、介護施設等への実習中の場合には実習先の判断を優先している。

3-12 【教員・教員組織】

(学校) 第13回オールケアジャパンコンテスト(AJCC)に参加。動画投稿の部において、本校の学生が優秀賞を受賞した。

基準4 学修成果

4-13 【就職率】

(学校) 就職率は92.8%であった(卒業生28名中26名が就職)。未就職の1名は卒業後に一般企業へ就職し、もう1名は体調不良により未就職である。

(学校) 例年どおり合同就職説明会を実施。参加施設については、学生と教職員の意見を踏まえて決めている。

基準5 学生支援

5-17 【中途退学への対応】

(学校) 退学者は3名であった。主な退学理由は学校生活への不適応と進路変更である。中途退学者防止のため、当該学生の早期発見・早期指導に努めていきたい。

5-18 【学生相談】

(学校) 令和5年度の留学生の在籍者数は、2年生が1名、1年生が0人である。なお、令和6年度の留学生の在籍者数は、2年生が0名、1年生が4名である。

5-19 【学生生活】

(学校) 授業料等減免制度利用者は31名(1年生22名、2年生9名)、高等教育の修学支援新制度利用者は7名(1年生4名、2年生3名)、介護福祉士修学資金貸付制度利用者は25名(1年生16名、2年生9名)である。

基準6 教育環境

6-22 【施設・設備等】

(学校) 学内全てのトイレにウォシュレットを設置した。

基準7 学生の募集と受入れ

7-25 【学生募集活動】

(学校) 令和6年度入学予定者に数名辞退者が出た。

(委員) 介護現場としては、社会人の入職も大事に思っているが、高校新卒者が増え、若者の活躍も今後増やしていきたいと考えている。

(委員) 今後ますます介護人材は必要になっていくと思う。介護職にとって倫理観はとて

も大切であり、学校教育の中でも取り入れていってもらいたい。また、18歳人口問題などもあり、学生募集はさらに厳しくなると思うが、学校として今後どのような取り組みをしようと考えているか伺いたい。

(学校) 高校を訪問すると、先生方の介護分野に関する情報がマスコミの情報に左右されていると感じる場面が少なくない。あからさまに介護業界はダメだと思っている進路指導担当者や保護者も残念ながらいらっしゃるが、介護業界を前向きに捉え興味を持ってくれている方も一定数いる。本校としては、正しい情報・前向きな情報の発信を今後もしていきたいと思っている。

7-26 【入学選考】

(委員) 毎年決まった高校から進学してくるのか。

(学校) 近隣の高校からは、ある程度コンスタントに進学してもらっている。

(学校) 入学選考時に、どうして介護分野を選んだかを受験生に聞くと、おじいちゃんやおばあちゃんが好きだからとか、親や先生に勧められたからなどの理由が多いが、実際に入学した学生の中には本当に介護の仕事に就きたいのか曖昧な学生も見受けられる。今後、高校生のうちに将来どうなっていきたいかなどを描けるようなオープンキャンパスの実施も検討している。

(学校) 小中高は勉強が大切だと言われているが、就職となると知識だけでなく人間力や生きる力も必要となる。学力と人間力（生きる力）の両方を身につけさせたい。

7-27 【学納金】

(学校) 令和7年度入学生より、学納金を値上げすることとした。

基準8 財務

8-28 【財務基盤】

(学校) 法人の財務基盤が安定してきた。

基準9 法令等の遵守

特になし

基準10 社会貢献・地域貢献

特になし